

・参加者等アンケート集計結果の概要

本事業では、プログラム終了後に、参加者（茨城会場；小学校2年生、山口会場；交通指導員、高齢者、交通ボランティア等）及び実行委員に対して、本事業を評価する際の参考とするためアンケート調査を実施した。

以下は、その集計結果の概要である。

また、以下に記述するパーセンテージは小数点第1位以下を四捨五入等し、合計が100%となるよう調整した。（一部項目を除く）

茨城会場

1. 市内小学2年生

(1) 参加児童の性別

アンケートが回収できた293名の参加児童の性別は、「男子」が45.1%、「女子」が54.6%、無回答が0.3%であった。（表1）

表1 性別（問1、n；293）

男 性		女 性		総 数	
132名	54.6%	160名	45.1%	293名	100%

無回答1名（0.3%）

(2) 交通安全について、だれと話すか、

ふだん、交通安全のことについて、だれと話すことがあるか、の質問について、「家族」が75.8%（222名）、次いで「友だち」が36.9%（108名）、「先生」が29.4%（86名）、「誰とも話さない」が10.9%（32名）であった。（表2）

表2 誰と参加（問2、n；293）

先生		家族		友だち		誰とも話さない	
86名	29.4%	222名	75.8%	108名	36.9%	32名	10.9%

無回答1名（0.3%）

(3) 今日の行事に参加して

今回の行事に参加して、参加者の65.9%（193名）が「大変良かった」、次いで20.8%（61名）が「良かった」と回答した。（表3）

表3 今日の記事に参加して（問3、n；293）

とてもよかった	193名	65.9%
よかった	61名	20.8%
ふつう	31名	10.6%
よくなかった	1名	0.3%
全然よくなかった	0名	0%
無回答	7名	2.4%

(4) プログラムの評価

表4 腹話術

とてもよかった	201名	68.6%
よかった	48名	16.4%
ふつう	36名	12.3%
よくなかった	1名	0.3%
全然よくなかった	0名	0%
無回答	7名	2.4%

表5 反射材

とてもよかった	215名	73.4%
よかった	45名	15.4%
ふつう	21名	7.2%
よくなかった	3名	1.0%
全然よくなかった	1名	0.3%
無回答	8名	2.7%

表6 内輪差

大変良かった	185名	63.1%
良かった	53名	18.1%
ふつう	36名	12.3%
良くなかった	2名	0.7%
全然良くなかった	5名	1.7%
無回答	12名	4.1%

表7 衝突体験

とてもよかった	161名	54.9%
よかった	30名	10.2%
ふつう	26名	8.9%
よくなかった	8名	2.7%
全然よくなかった	4名	1.4%
無回答	64名	21.8%

(5) 参加して感じたこと

行事に参加しての今の気持ちについて、特に「交通ルールや交通マナーを守ろうという気持ちが強くなった」との回答が8割以上を占めた。(表8)

表8 各項目についての今の気持ち(問5、n ; 293)

交通ルールや交通マナーを守ろうという気持ちが強くなった	239名	81.6%
道路では、まわりの車や人に十分注意して行動しようという気持ちが強くなった	212名	72.4%
交通安全についてもっと知りたいという気持ちが強くなった	198名	67.6%
お年寄りの交通安全についても考えようという気持ちが強くなった	170名	58.0%
特に変わりはない	5名	1.7%

(6) 行事への参加について

これからも、今日のような行事に参加したいか、について、参加者の85.3%(250名)が「参加したい」と回答した(表9)

表9 今後の参加について(問6、n ; 293)

参加したい		参加したくない	
250名	85.3%	43名	14.7%

2. 実行委員(茨城地区)

実行委員のアンケート総数は10名であった。その集計結果の概要は以下のとおりである。

(1) 実行委員の属性

アンケートを回収した実行委員の性別は、男性が90%(9名)、女性が10%(1名)だった。(表10)

年齢別では、「40代」、「50代」が30%（それぞれ3名）、次いで「20代」が20%（2名）だった。（表11）

表10 実行委員の性別（問1-1）

男性		女性		無回答		総数	
9名	90%	1名	10%	0名	0%	10名	100%

表11 実行委員の年齢別内訳（問1-2）

20代	2名	20%
30代	1名	10%
40代	3名	30%
50代	3名	30%
60代	1名	10%
無回答	0名	0%
総数	10名	100%

また、実行委員の所属は、行政が50%（5名）で最も多く、次いで警察が30%（3名）であった。（表12）

表12 実行委員の所属・種別

	実行委員
老人クラブ・老人会	0名
	0%
町内会・自治会	0名
	0%
婦人会	0名
	0%
交通安全協会	1名
	10%
交通安全母の会	0名
	0%
行政	5名
	50%
警察	3名
	30%

その他	1名
	10%
無回答	0名
	0%
総数	10名
	100%

(2) プログラムの評価について

自身の地区のプログラムの評価について、実行委員の80%(8名)が「良かった」、次いで20%(2名)が「大変良かった」と回答した。(表13)

表13 今日の行事は(問2-1)

大変良かった	2名	20%
良かった	8名	80%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

プログラムの評価(問2-2)

表14 腹話術

大変良かった	8名	80%
良かった	2名	20%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

表 15 反射材

大変良かった	4名	40%
良かった	5名	50%
ふつう	1名	10%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

表 16 内輪差

大変良かった	5名	50%
良かった	4名	40%
ふつう	1名	10%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

表 17 衝突体験

大変良かった	4名	40%
良かった	6名	60%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

(3) 本事業で達成できたと思うことについて（複数回答）

本事業を実施し、参加者に期待したことで、達成できたと思うことについて、実行委員の70%（7名）が「今日の行事がきっかけとなって、地域の交通安全活動への参加意欲が高まる」、「家庭や地域の中で交通安全について話し合う大切さを知ってもらう」と回答した。（表18）

表18 達成できたと思うこと（問3）

交通ルールや交通マナーの大切さを理解してもらう	7名	70%
お互いが顔見知りになり、挨拶や声掛けができる雰囲気になってもらう	1名	10%
家庭や地域の中で、交通安全に果たす役割を自覚する	5名	50%
今日の行事がきっかけとなって、地域の交通安全活動への参加意欲が高まる	7名	70%
家庭や地域の中で、交通安全について話し合う大切さを知ってもらう	7名	70%
その他	1名	10%
無回答	0名	0%

(4) 交通ボランティア活動の実践の場としての、本事業の評価

本事業に、実行委員として参加いただいたことで、交通安全教育などの知識や技術向上の機会となったかについて
実行委員の100%（10名）が「大変役立った」、「役に立った」と回答した。（表19）

表19 知識や技術向上の機会となったか（問4-1）

大変役立った	5名	50%
役立った	5名	50%
ふつう	0名	0%
役立たなかった	0名	0%
全然役立たなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

本事業に参加いただいたことによって、有益だったことについてそれぞれ60%（6名）が「交通安全教室実施のための企画立案について」、「行政や警察、他団体との連携について」と回答した。（表20）

表 20 有益だったと思うこと（問 4-2）

交通安全に関する知識の習得について	5名	50%
交通安全教育を行う際の指導方法について	4名	40%
交通安全教室実施のための企画立案について	6名	60%
交通安全教室の運営について	2名	20%
交通安全教室で使用する道具等の制作・調達について	3名	30%
行政や警察、他団体との連携について	6名	60%
その他	1名	10%
無回答	0名	0%

本事業に参加いただいたことにより、今後の交通安全活動に活用される予定について、90%（9名）が「活用していきたい」と回答した。（表 21）

表 21 今後の活用予定について（問 4 - 3）

活用していきたい	9名	90%
一部活用していきたい	1名	10%
どちらともいえない	0名	0%
活用することは難しい	0名	0%
無回答	0名	0%

本事業への参加を契機として、今後同様（又は類似）の体制で交通安全教室を実施したいと思うか、またそれは現実的に可能かについて
 実行委員の70%（7名）が「実施したいし、可能だと思う」、と回答した一方、30%（3名）が「実施したいが、困難だと思う」と回答した。（表 22）

表 22 継続実施に向けての意欲と可否（問 4-4）

実施したいし、可能だと思う	7名	70%
実施したいが、困難だと思う	3名	30%
実施したいと思わない	0名	0%
どちらともいえない	0名	0%
無回答	0名	0%

前問で「実施したいが、困難だと思う」と答えた理由について。(自由記述)

- ・予算的、人力的な面での調整が必要

(5) 本事業以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるためにはどのような機会が必要だと思うか。(自由記述)

- ・地域(公民館など)で交通安全教室を行い参加してもらう
- ・研修会や講演会等で意識の向上を図る
- ・定期的な勉強会、関係機関との意見交換、情報共有
- ・警察、自治体の推進方法を積極的に行うべき
- ・関係機関の定期的な勉強会の実施
- ・ボランティア活動をする上で積極的な知識を得るための講習

(6) 今回、本事業に取り組んだことで、あなた自身に意識の変化や再認識したことがあったか。(自由記述)

- ・今回の行事で明らかになった課題を今後に活かしたい
- ・講習会形式よりも体験型の方が興味を持ってもらえる
- ・子どもたちの特性、交通事故状況を勉強する必要性を感じた

(7) 本事業に対する意見や提言について。(自由記述)

- ・物販(反射材用品等)を出来るようにすれば効果が上がる
- ・準備期間を長めに取ることも必要
- ・より多くの参加者を募ることが課題
- ・有意義な経験をさせていただき感謝

山口会場

1. 地域の交通ボランティア等

(1) 参加者の属性

属性

アンケートが回収できた147名の性別は、「男性」が79.6%、「女性」が20.4%であった。(表1)

年齢については、「70代」が51.0%(75名)、「60代」が23.8%(35名)次いで「80歳以上」が12.2%(18名)であった。(表2)

運転免許の有無については、「あり」が62.6%、「なし」が0.7%、無回答が36.7%であった。(表3)

表1 性別(問1-1、n;147)

男性		女性		無回答	
117名	79.6%	30名	20.4%	0名	0%

表2 年齢(問1-2、n;147)

20代	1名	0.7%
30代	3名	2.0%
40代	7名	4.8%
50代	8名	5.5%
60代	35名	23.8%
70代	75名	51.0%
80歳以上	18名	12.2%

表3 運転免許(問1-3、n;147)

あり		なし		無回答	
92名	62.6%	1名	0.7%	54名	36.7%

(2) 今日の行事に参加したきっかけ(理由)

今回の行事参加したきっかけの質問については、「市町等からの案内」が46.9%(69名)次いで「交通安全に興味があった」が34.7%(51名)であった。(表4)

表4 今日の行事に参加して（問2、n；147）

交通安全に興味があった	51名	34.7%
市町等からの案内	69名	46.9%
知人に誘われた	6名	4.1%
家族に誘われた	0名	0%
おもしろそうだった	1名	0.7%
その他	20名	13.6%

(3) 今日の行事に参加して（感想）

参加して

今回の行事に参加して、参加者の64%（94名）が「大変良かった」、次いで34%（50名）が「良かった」と回答した。（表5）

表5 今日の行事に参加して（問3-1、n；147）

大変良かった	94名	64.0%
良かった	50名	34.0%
ふつう	3名	2.0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%

プログラムの評価（問3-2、n；147）

表6 スケアードストレイト

大変良かった	72名	49.0%
良かった	64名	43.5%
ふつう	11名	7.5%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%

表7 歩行環境・自転車シミュレーター

大変良かった	57名	38.8%
良かった	72名	49.0%
ふつう	17名	11.5%
良くなかった	1名	0.7%
全然良くなかった	0名	0%

表 8 俊敏性測定機器体験

大変良かった	55 名	37.4%
良かった	72 名	49.0%
ふつう	17 名	11.6%
良くなかった	3 名	2.0%
全然良くなかった	0 名	0%

表 9 反射材効果実験・飲酒ゴーグル

大変良かった	65 名	44.2%
良かった	61 名	41.5%
ふつう	18 名	12.3%
良くなかった	3 名	2.0%
全然良くなかった	0 名	0%

表 10 サポートカーS 体験乗車・展示

大変良かった	66 名	44.9%
良かった	68 名	46.3%
ふつう	10 名	6.8%
良くなかった	2 名	1.3%
全然良くなかった	1 名	0.7%

表 11 シートベルトコンビンサー

大変良かった	67 名	45.6%
良かった	64 名	43.5%
ふつう	16 名	10.9%
良くなかった	0 名	0%
全然良くなかった	0 名	0%

(4) 参加しての今の気持ち

行事に参加しての今の気持ちについて、全ての項目で参加者の約 9 割以上が「気持ちが高まった」と回答した(表 12)。

表 12 各項目についての今の気持ち（問 4、n ; 147）

	はい		いいえ	
交通ルールや交通マナーを守らなければいけないという気持ちが高まりましたか	147 名	100%	0 名	0%
道路状況や交通状況などに十分注意して行動しようという気持ちが高まりましたか	147 名	100%	0 名	0%
友人や仲間と、交通安全について話し合おうという気持ちが高まりましたか	142 名	96.6%	5 名	3.4%
地域の子もたちや地域の皆さんを、交通事故から守ろうという気持ちが高まりましたか	145 名	98.6%	2 名	1.4%
交通安全のために、自らが地域で役割を果たそうという気持ちが高まりましたか	144 名	98.0%	3 名	2.0%
これからも機会があれば交通安全教室に参加しようという気持ちになりましたか	145 名	98.6%	2 名	1.4%

(5) 開催日（曜日を含む）について

開催日について、参加者の 95.2%（140 名）が「良かった」と回答した。（表 13）

表 13 行事全体の時間の長さについて（問 5-1、n ; 147）

良かった		良くなかった	
140 名	95.2%	7 名	4.8%

(6) 行事全体の時間の長さについて

行事全体の時間の長さについて、参加者の 81.6%（120 名）が「良かった」と回答した。（表 14）

表 14 行事全体の時間の長さについて（問 5-2、n ; 147）

良かった		長かった		短かった	
120 名	81.6%	19 名	12.9%	8 名	5.5%

(7) 参加者の数について

参加者の数について、参加者の 62.6%（92 名）が「良かった」と回答した一方、「多かった」とする回答も 34.7%（51 名）みられた。（表 15）

表 15 参加者の数について(問 5-3、n ; 147)

良かった		多かった		少なかった	
92 名	62.6%	51 名	34.7%	4 名	2.7%

(8) プログラム(ブース)の数について

プログラム(ブース)の数について、参加者の 85.7% (126 名) が「良かった」と回答した。(表 16)

表 16 プログラム(ブース)の数について(問 5-4、n ; 147)

良かった		多かった		少なかった	
126 名	85.7%	21 名	14.3%	0 名	0%

(9) 各プログラム(ブース)の中での説明の仕方について

各プログラム(ブース)の中での説明の仕方について、参加者の 93.2% (137 名) が「良かった」と回答した。(表 17)

表 17 各プログラム(ブース)の中での説明の仕方について
(問 5-5、n ; 147)

良かった		良くなかった	
137 名	93.2%	10 名	6.8%

(10) 全体の流れ(進行)について

全体の流れ(進行)について、参加者の 97.3% (143 名) が「良かった」と回答した。(表 18)

表 18 全体の流れ(進行)について(問 5-6、n ; 147)

良かった		良くなかった	
143 名	97.3%	4 名	2.7%

2. 実行委員（山口地区）

実行委員のアンケート総数は13名であった。その集計結果の概要は以下のとおりである。

(1) 実行委員の属性

アンケートを回収した実行委員の性別は、男性が76.9%（10名）、女性が23.1%（3名）だった。（表19）

年齢別では、「40代」が46.2%（6名）、「50代」が23.1%（3名）、次いで「60代」が30.7%（4名）だった。（表20）

表19 実行委員の性別（問1-1）

男 性		女 性		総 数	
10名	76.9%	3名	23.1%	13名	100%

表20 実行委員の年齢別内訳（問1-2）

40代	6名	46.2%
50代	3名	23.1%
60代	4名	30.7%

また、実行委員の所属は、行政が53.8%（7名）で最も多く、次いで婦人会が23.1%（3名）であった。（表21）

表21 実行委員の所属・種別（問1-3）

	実行委員
行政	7名
	53.8%
婦人会	3名
	23.1%
交通安全協会	1名
	7.7%
警察	1名
	7.7%
その他（自動車学校）	1名
	7.7%
総 数	13名
	100%

(2) プログラムの評価について

自身の地区のプログラムの評価について、実行委員の 76.9% (10 名) が「大変良かった」、次いで 23.1% (3 名) が「良かった」と回答した。(表 22)

表 22 今日の行事は (問 2-1)

大変良かった	10 名	76.9%
良かった	3 名	23.1%
ふつう	0 名	0%
良くなかった	0 名	0%
全然良くなかった	0 名	0%
無回答	0 名	0%

プログラムの評価 (問 2-2)

表 23 スケアードストレイト

大変良かった	11 名	84.6%
良かった	2 名	15.4%
ふつう	0 名	0%
良くなかった	0 名	0%
全然良くなかった	0 名	0%
無回答	0 名	0%

表 24 歩行環境・自転車シミュレーター

大変良かった	9 名	69.2%
良かった	3 名	23.1%
ふつう	1 名	7.7%
良くなかった	0 名	0%
全然良くなかった	0 名	0%
無回答	0 名	0%

表 25 俊敏性測定機器体験

大変良かった	11名	84.6%
良かった	2名	15.4%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

表 26 反射材効果実験・飲酒ゴーグル

大変良かった	8名	61.5%
良かった	4名	30.8%
ふつう	1名	7.7%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

表 27 サポートカーS体験乗車・展示

大変良かった	8名	61.5%
良かった	5名	38.5%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

表 28 シートベルトコンビンサー

大変良かった	6名	46.2%
良かった	5名	38.5%
ふつう	2名	15.4%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

(3) 本事業で達成できたと思うことについて(複数回答)

本事業を実施し、参加者に期待したことで、達成できたと思うことについて、実行委員の約8割(10名)が「交通ルールや交通マナーの大切さを理解してもらおう」と回答した。(表29)

表29 達成できたと思うこと(問3)

交通ルールや交通マナーの大切さを理解してもらおう	10名	76.9%
お互いが顔見知りになり、あいさつや声掛けができる雰囲気になってもらう	1名	7.7%
家庭や地域の中で、交通安全に果たす役割を自覚する	9名	69.2%
今日の行事がきっかけとなって、地域の交通安全活動への参加意識が高まる	5名	38.5%
家庭や地域の中で、交通安全について話し合う大切さを知ってもらう	7名	53.8%
その他	0名	0%

(4) 交通ボランティア活動の実践の場としての、本事業の評価

本事業に、実行委員として参加いただいたことで、交通安全教育などの知識や技術向上の機会となったかについて

実行委員の100%(13名)が「大変役立った」、「役に立った」と回答した。(表30)

表30 知識や技術向上の機会となったか(問4-1)

大変役立った	8名	61.5%
役立った	5名	38.5%
ふつう	0名	0%
役立たなかった	0名	0%
全然役立たなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

本事業に参加いただいたことによって、有益だったことについてそれぞれ92.3%(12名)が「交通安全に関する知識の習得について」と回答した。(表31)

表 31 有益だったと思うこと（問 4-2）

交通安全に関する知識の習得について	12 名	92.3%
交通安全教育を行う際の指導方法について	5 名	38.5%
交通安全教室実施のための企画立案について	5 名	38.5%
交通安全教室の運営について	6 名	46.2%
交通安全教室で使用する道具等の制作・調達について	2 名	15.4%
行政や警察、他団体との連携について	5 名	38.5%
その他	0 名	0%
無回答	0 名	0%

本事業に参加いただいたことにより、今後の交通安全活動に活用される予定について、92.3%（12 名）が「活用していきたい」と回答した。（表 32）

表 32 今後の活用予定について（問 4 - 3）

活用していきたい	12 名	92.3%
一部活用していきたい	1 名	7.7%
どちらともいえない	0 名	0%
活用することは難しい	0 名	0%
無回答	0 名	0%

本事業への参加を契機として、今後同様（又は類似）の体制で交通安全教室を実施したいと思うか、またそれは現実的に可能かについて

実行委員の 53.8%（7 名）が「実施したいし、可能だと思う」、と回答した一方、30.8%（4 名）が「実施したいが、困難だと思う」と回答した。（表 33）

表 33 継続実施に向けての意欲と可否（問 4-4）

実施したいし、可能だと思う	7 名	53.8%
実施したいが、困難だと思う	4 名	30.8%
実施したいと思わない	1 名	7.7%
どちらともいえない	1 名	7.7%
無回答	0 名	0%

前問で「実施したいが、困難だと思う」と答えた理由について。(自由記述)

- ・予算及び装備、資器材の面で困難
- ・費用の面で大きな壁がある
- ・同様ではなく、縮小した形ならば可能

(5) 本事業以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるためにはどのような機会が必要だと思うか。(自由記述)

- ・参加、体験、実践型の交通安全教室
- ・交通指導員対象の交通安全教室、研修会
- ・行政、警察、ボランティア団体が協力して交通教室を実施する
- ・各部門、団体が一堂に会した研修会などを開催

(6) 今回、本事業に取り組んだことで、あなた自身に意識の変化や再認識したことがあったか。(自由記述)

- ・スケアードストレイトでは、交通事故の恐ろしさを再認識した
- ・自動車メーカーとの連携強化
- ・サポカーSの積極的な導入
- ・交通安全をより深く理解できた
- ・受講者が理解しやすい講習に努めた
- ・参加者に対する対応の難しさを再認識した

(7) 本事業に対する意見や提言について。(自由記述)

- ・最前線の交通安全教室が実施できた
- ・今回のような取り組みをもっと広報できれば良いと思う
- ・各内容それぞれに多くの人の協力があって、無事に終了できたと思う
- ・参加者のアンケート結果から、交通事故の危険、恐ろしさなどを認識したという結果が出て大変良かったと思う

(参考) 各地区のプログラム評価

地区ごとに評価の高かったプログラムを、小学生 / 参加者 / 実行委員別にまとめると下表のとおりである。本事業で開催したイベントのプログラムは2地区で異なるため、参考とした。(表 29)

表 34 各地区のプログラム評価

開催地	対象	1 位	2 位
茨城県	参加者	ピカベスト(高視認性)の効果	腹話術
水戸市	実行委	腹話術・衝突体験	
山口県	参加者	スケアードストレイト見学	サポートカーS 体験乗車・展示
周南市	実行委	スケアードストレイト見学	サポートカーS 体験乗車・展示

実行委員会を「実行委」と表記

参加者、実行委員ともに「大変良かった」、「良かった」の合計値で順位付けした。

